2．「いじめ」の問題をどう見ているか
ー中２Ａの「いじめ」問題アンケートについてー

山田　　孝

【抄録】クラスの中でどういう「いじめ」が進行しているのか。また、そもそも「いじめ」が存在するのか、担任としても把握しづらいところである。何か特別なでき事が起きないかぎり、顕在化してくることはない。さらに顕在化してくる頃には、深刻な事態になっていると言わなければならないことが多い。「いじめ」の徴候をいち早くキャッチするために、今回、一般的な事例から身近な事例まで取り上げて、アンケートを行った。

【キーワード】「いじめ」　「いじめ」の社会構造　人権意識　子どもたちの様子

1．クラスの中に「いじめ」はあるのか？

クラスの中に「いじめ」があるのか、担任としては常に気になるところである。最近の「いじめ」は、なかなか表面に出にくく、発見が遅くなってしまいがちである。本来、学校という場は、子どもたちの健やかな成長と、その成長のための人権が充分に保障されなければならない。しかし、「いじめ」はそうした健やかな成長や子どもたちの人権を否定するものである。担任としては、この問題をけっしておろそかにすることはできないのである。

そして、今日の社会状況からも考えて、「いじめ」の徴候のないクラスというのが存在しないのではないか、ということである。これは、１つには、思春期を迎えた子どもたちの対人関係の形成における難しさの問題であり、もう１つには、現代社会がかかえた「いじめ」の体質によるものではないだろうか。こう考えれば、クラスの中に、何らかの「いじめ」が存在する可能性があるわけである。したがって、その徴候を発見しだい、対策を講じる体制を担任が取っておく必要があるし、また、積極的に「いじめ」の実態をつかむ手段を講じることも必要だろう。

この様に「いじめ」に対する準備を整えていたのだが、実際に「いじめ」を発見することができたのは、本人からの相談があったからであった。

2．相談された「いじめ」の実態

中学２年生も中ばを過ぎた頃、その生徒が私に相談したいことがあると言ってきた。その内容は何かと言うと、クラスの友だちに部活動の時などに、「××はすぐ泣く」などと言われるということであった。特に本人が気にしているのは、そう言われても、反論できないことであり、そう言う友だちが増えてきたということであった。「悪口」を言われる回数も増えてきて、もうがまんできないということで、担任の私の所に相談にやって来たのだった。「悪口」の内容自体も特に悪質なものではなかったが、相談に来た本人は深刻に悩んでいた。これも、最近の「いじめ」の特徴として考えられるのだが、「いじめ」の当事者たちは、そんなに悪い事（「いじめ」）をしていると思っていないことである。意外と軽い気持ちでやっていたり、また、何か別の理由があって、「いじめ」と関係ないことであったりする。そして、「いじめ」られている本人はとても深刻に受けとめているということである。

この後も、数回にわたり私と二人だけで対応を話し合って、この問題の解決のために努力したのだが、これを機会に、クラスの中の「いじめ」に対する実態調査を行うことにした。さらにこうした「いじめ」があることを、クラスの仲間が気付いているのか、また気付いていてどう対応しようとしているのか合わせて、実態がつかめないものかアンケートすることにした。

3．「いじめ」問題アンケートを実施

「いじめ」の問題をアンケートするにしても、ストレートに聞いても、直接的な答が応ってくるものではない。ここでは、道徳の授業の一環として、一般的な「いじめ」問題を取り上げて、その最後のまとめとして、アンケートを行うという形にした。この方が、今日の「いじめ」の構造が理解できる上に、身近な問題にも抵抗なく感想が書けるのではないかと考えたからである。あくまでも、道徳の授業として行ったものである。アンケートの結果も利用して、再度、「いじめ」の授業を行った。

この時の道徳の資料は、この報告の最後にあるので参考にしてほしい。

中２Ａ　アンケート結果

（１），「ぼくのような犠牲者は、ぼくで最後にして」を読んだ感想を書いてください。

・最後にしたいなぁ。
・まじめに読んでいない。
・このようなことは、もうおこしてはならない。
・いじめるほうは、おもしろ半分でやっていても、それを受ける側にとってはすごくつらいことで、ある時には自殺まで追い込んでしまうということをもっとわきまえる必要があると思った。
・すごくかわいそうだと思いました。誰かをいじめる人は、変わっている。なにか得するわけでもないと思います。
・いじめはかわいそうだと思う。
・「いじめ」ってすごいなぁと思った。冗談でいじめたとしても、相手にはそうとうなショックを与えるんですね。気をつけなくては。
・なんで、抵抗しなかったかよくわからない。
・本当に最後にしてほしい。でも何もいえない自分がむなしい。
・すごく恐いと思った。気持ちがわからないわけでもないけど、なぜ誰も助けなかったのか？と思う。この人の思いもむなしく最後にはなっていない。
・かわいそうだと思った。
・ひどいと思った。
・すごいすごいかわいそう。
・あたまにくる。
・私も、この人のようないじめにあったことはなく、もっと規模が小さいものでした。それでも、とても悲しくていやだったのに、この人の場合はもっと悲しくていやなんだと思うと、いじめるやつの経がわからやない。
・かわいそう。そんな奴を殺してやりたい。
・かわいそーだと思った。

（２），今、クラスのなかにいじめはあると思いますか。「ある」ならば、どんないじめがいまありますか。

・ない　22人
・ある　13人
・わかりません。

「ある」と答えた人の意見

・ときどき、男子になんかいわれる。あと、Ａがいじめられているみたい。だけど、Ａはいじめられてとうぜんだと思う。だって、Ａだって私のこといじめたもんね。
・「ある」みたいに見えますが、やられている人も、それなりの理由があるみたいなので、いじめとはちがうでしょう。
・冗談半分でやっていることでも、本人はとても気にしている。と思う。
・あるのか・・・うーん。じょうだん or いじめなのかわからない時がある。
・「ない」と思う。
・ある！どんなのかわからない。（のり事件）
・いじめといったいじめはないと思う。
・あると思う。名前は出さないが、机に落書されたり持ち物をどこかにつるしたりなど。
・ある。物をかくす。そのうちやっているやつをなぐり殺す。

（３），あなたは、いじめられたことがありますか。また、どんなふうにいじめられましたか。

・ない　19人
・ある　14人
・物かくされた＆悪口。
・わからん
・男子に、ゴムをなげつけられたりした。あと、となりの席とかになるとめちゃくちゃいわれる。
・友達が、というのはよくあります。あとは、いじめというより、リンチされたことやすれ違うときにわざと大きな声で悪口を言われたことはあった。（でも、理由があったからいじめじゃない）
・いじめかどうかわかんないけど、小学校の頃、一週間ぐらい無視された。
・もう忘れた。
・いじめとまではいかないと思うけが、黒板に悪口や変な絵を書かれたことがある。
・ある。塾へ一緒に行く友達グループの中で一人、その中にリーダーがいて、その子をのぞくグループの子中心にいじめていくのです。順番にまわってくるので私もそのめにあいました。塾が終わり帰るととうせんぼをしたり、無視したり、ハイキンと言ってきたりしたことです。
・ない。いじめたことが一回ある。でももうぜったいにしない。
・てきとー（悪口、エトセトラ）

（４），いじめにであったときあなたはどうしますか。また、どうしなければならないと思いますか。

・強気になる。はらがたったから、他の子仲間にしていじめ返した。
・かまんする。

・やめさせなければならない。
・どうしていじめをするのか、いじめる人に聞く。
・そうなってみないとわからない。
・べつに、怒ったけどもういい。無視するようになった。小学校の男子の方がよっぽど大人だった。どーしてこの学校の男子ってこんなにがきばっかなんだろーと思う。
・友達に相談する。
・抵抗して、立場を逆にする。
・いじめられている人を助けなければならないと思う。
・本当はいけないのだけれど、なるべくかかわらないようにするしかない。かげながらその人を助ける。表立ってそういうことはできないのだから。
・いじめられたら、いじめたやつをなぐる。あやまらせる。
・しらんぷり、ほっとけ。
・いじめてきたやつをいじめかえす。
・完全に無視する。気にしないふりをする。
・実際にあった時、私はそのいじめに反抗し、だまっているだけでなく、私の方からもなぜいじめるのか聞いたりしているうちにいじめは終わりました。
・いじめたやつをなぐり殺す。
・反抗する。

4．アンケート結果から見えてくること

「ぼくのような犠牲者は、ぼくで最後にして」の感想では、ほとんどが同情的であり、何とかしなければと考えているようだが、実際場面での「いじめ」については、無力感を感じているようだ。本来ならば、現実の「いじめ」にも勇気を持って対していってほしいものである。

「いじめ」の実態については、クラスの中に「いじめ」がないと答えたのが、半数以上の22人で、あると答えた13人よりも多い。「いじめ」自体が潜在化してしまい、クラスの仲間にも見えにくいし、一見して「いじめ」なのか、単なる遊びなのか判然としない面もあるようだ。また、いじめられる理由があれば、「いじめ」ではいという意見もあった。「いじめ」の問題が人権問題であるということまで、理解されなかったのが残念である。

「いじめ」の体験者が14人であり、これは、「いじめ」があると答え生徒とほぼ同数であり内容も一致している。

5．おわりに

今回のアンケートによって、「いじめ」に関する意識は高まったようである。また、「いじめ」問題に対して、それぞれの意見が、紙面で交流できた。（アンケート結果を配布した。）

しかし、これによって全て「いじめ」問題が解決されるわけではない。資料にもある様、今日の社会には、構造的な「いじめ」の体質があり、それにさらされている子どもたちも常に影響されている。この問題は、くりかえし論議していく必要があるだろう。

担任としてもいくつかの発見をした。ついつい「いじめ」の徴候を見のがしてきてしまっているということだ。物のをかくされたり、落書きをされたりといったことも「いじめ」につながっているということを認識しなければならない。

参考文献

・家本芳郎「いじめなんかぶっとばせ」民衆社 1985年
　資料「＊このごろのいじめ10の特徴」よりすべてこの本より抜粋。
・能重真作「いじめはなくせる」あけび書房　1985年
・安斎育郎「街でうわさの戦争と平和」かもがわブックレット　1993年
・丸木政臣「もういじめられなちんだ」実日新書 1985年

資料のプロローグは、この本から抜粋したものである。

プロローグ
『ぼくのような犠牲者は、ぼくで最後にして』

「お母さん、お父さん、ごめんなさい
学校へ行くと毎日毎日いやなことばかり。いいことなどはぜんぜんない。2年1組のみんなもぼくと入れ替わればわかるよ．．
話し相手といったら、かわいがっているハムスターぐらい。でも（ハムスターは）返事をしてくれない……
いまどうしても涙がとまらない。ぼくが生きているあいだ、ひとつだけ、ひとつだけつくりたいものがあった。それは、心から話し合える友だちがほんとうにほしかった。ひとりでいい、ひとりでいいからそういう友だちがほしかった。では、さようなら」

昭和54年1月19日、とんな遺書を残して、中学2年生の男の子が自殺しました。東京都足立区に住み、近所の区立中学校に通っていたT君です。

自殺の当日まで、T君は3日間つづけて学校を休んでいました。でも、両親は毎日きちんと学校へ行っていると思っていました。学校からはなんの連絡もなかったし、その日もT君はいつものように制服を着て家を出ていたからです。

ところが午後2時ごろ、お母さんが2階のベランダで見たのは、学校へ行ったはずのわが子の、変わはてた姿でした。T君は、自宅2階のベランダにある物置の中で首をつっていたのです。遺書は、クラスの班ノートに1ページ半にわたってつづられて物置のゲタ箱の上に置いてありました。

T君は、銀行員のお父さんとお母さん、おばあさん、弟と5人で暮らしていました。学校での成績は良かったのですが、からだが小さく病弱で内気な性格だったため、クラスの仲間からは〝弱い子〟と考えられていたようです。それが理由かどうかはわかりませんが、3、4カ月前から、よくケガをさせられて、アザだらけになって家に帰ってくることがありました。友だちに首をしめられて、全治1カ月のムチ打ち症になったこともありました。でも、担任の先生に「いじめられたのか？」と聞かれると、「そうじゃない」と首をふりました。両親には、「先生にいいつけると3、4倍にもなって返ってくる」などと話していたそうです。

この事件が起きた当時は、まだ現在ほどいじめの問題がクローズアップされてはいませんでした。それだけに社会にあたえたショックも大きかったのですが、いっぽうではまた、いじめの事実とT君の自殺とを直結することに対するためらいが、マスコミの報道のはしばしにも現われていたように感じます。T君の通っている中学校での反応も「学内暴力が自殺の原因とは思えない」というものでした。自殺の原因を、あくまでもT君自身に求めていたのです。

しかし、いまになってふり返ってみると、このT君の自殺事件、「ハムスターだけが友だち」と書き残した、あまりにいたましい〝ハムスター事件〟は、現在広範囲に広がった〝いじめ問題〟の予徴だったように思えてなりません。

遺書とはべつに、T君の日記にはこんな一文がありました。

「ぼくのような犠牲者は、ぼくで最後にしてほしい」

T君の悲痛な訴えにもかかわらず、犠牲者はなくなりませんでした。

〝ハムスター事件〟からちょうど6年たった昭和60年1月、ふたたび社会に大きなショックをあたえる女子中学生の自殺事件が起こりました。茨木県水戸市の市立中学校に通う2年生のE子さんが、「もういじめないでね」という遺書を残して死んだのです。

E子さんはお母さんと妹との3人暮らし。1年生の11月に県内の別の中学校から転校してきました。最近では、転校生が途中からクラスの仲間にとけ込んでいくのは、とくに女の子のばあい、かなりむずかしいことです。クラス内ではすでにいくつかのグループが確立していて、勢力範囲も決まっているばあいが多いからです。転校生は、そうした状況をすばやくつかんで、じょうずにどこかのグループに入り込まなければなりません。

その点、E子さんはじつに不幸でした。彼女に近づいてきた6人は、クラス内のいじめグループだったのです。グループに加わることはできたけれど、6人にとけ込むことができなかったために、同じグループ内で仲間からいじめられることになってしまいました。

2年生になると、書籍を盗まれたり．教科書に「あほ」「あんたなんか死んぢまえ」といった落書きをされることが頻繁になりました。2学期に入ると、お母さんに「転校したい」とくり返し訴えるようになりました。たまりかねてお母さんは校長先生にも相談したのですが、担任との面談でもなんら具体的な解決策が打ち出されないままに、3学期を迎えました。

E子さんは1月16日の朝「ぐあいが悪い」といって学校を早退したまま、18、19、21日とつづけて無断欠席しています。そして、その21日の夕方、6人の仲間が「先生に様子を見てこいといわれた」といつわって、E子さんの家に押しかけたのです。E子さんが玄関に出ていかなかったため、6人はE子さんの家をとり囲み、石をぶつけたり、罵声をあびせかけたりしまし

た。

5時ごろ、お母さんが帰宅して、6人を家に入れました。E子さんがいる前で、どうして6人がE子さんをいじめるのか、その理由を聞きたいと思ったからです。

6人は「うそをつかれたから」と答えました。15日の成人の日に、いっしょにスケートに行く約束をしていたのに、E子さんは約束を破って来なかった、というのです。お母さんは「うそをついたのではなく、連絡がいき違っただけなのだから、友だちなら話し合ってちょうだい」と頼みました。

すると6人は「あたしらだけで話をつける。ババアは黙ってろ」といってお母さんを追いだし、E子さんをとり囲んで「うそつき」「死んでしまえ」などと責めたてていたといいます。

E子さんはその日の午後10時ごろ、自宅前の電柱に電気コードをひっかけ、自転車をふみ台にして首をつりました。

E子さんは、どちらかといえば暗い、内向的な性格で、人づき合いがあまりうまくないタイプの女の子だったようです。そのために、グループの仲間に気に入られるようにふるまうことができなかったのでしょう。事件後、お母さんも「E子は神経が細かく、見栄をはるところがあったからいじめられたのかもしれない」と語っています。

いじめられっ子は一般に内気で神経質な子が多いといわれます。つまり、いじめられる側にも原因があるんだ、とよくいわれます。

しかし、はたしてそうでしょうか。内気で、神経質で、見栄をはるからといって、それがいじめていい理由になるのでしょうか。

また、大人のなかには「いじめなんて昔からいくらでもあった。みんな、それを乗り越えて成長してきたんだ。なぜいま、それほど問題にするのか」と考える人もいるようです。しかしいまのいじめと昔のいじめは同じものでしょうか。

大きな事件が起こってマスコミが騒いだから、いまのいじめが問題なのだというわけではありません。

たとえ自殺にまではいたらなくても、毎日いじめられて苦しんで、どうしようもない孤独感にさいなまれている子どもたちはたくさんいるのです。その子どもたちにとっては、大人には想像もつかないほどの大問題なのです。

いまのいじめは、明らかな〝人権侵害〟です。そして、当事者である子どもたちばかりの問題ではなく、大きな原因は、私たち大人の側にあると、私は考えています。

＊このごろのいじめ一〇の特徴

この作文を読んで、きみはどう思う。

ふつうだったら「ごめんね」といえば許してもらえる。

ところが、この作文のように、このごろのいじめは、

①あやまってもいじめは続けられる。

②二・三日で終わらないで、長く続けられる。何年にもわたっていじめられた人がいる。

③おもしろ半分、遊び半分にいじめる。

④一つの方法でいじめるのではなく、ほかの方法、たかり、いやがらせ、暴力などおりまぜていじめる。

⑤いじめかたがひどすぎる。

⑥関係ない人までが加わっていじめる。

⑦大人からみるとたいした理由でもないのにいじめる。理由をつくっていじめる。

⑧いじめられてもがまんしていると、ますます強くいじめる。

⑨いじめられても先生や親にいいつけそうもない人がいじめられる。

⑩それまで友人だったり仲良しだったものをいじめる。

この一〇ヶ条が近ごろのいじめの特徴だ。

こんないじめかたでいじめられている人は、きみのクラスにいないだろうか。

2　いじめを発見せよ

＊いじめ発見のポイント

そこで、きみたちは、「あっ、あの人はいじめられてるな」と、早く発見しないといけない。

まず、だれがいじめられてるか、しかとみさだめることだ。いしめを発見することだ。

いじめを発見したからといって、きみはなにもしてやれないかもしれない。しかし、それでもいい。「あの人はいじめられているんだ」と、まず、知ることだ。

その発見のポイントを知らせておこう。これらは、あるきまった人の身におこることだ。

①学校を休む。

いじめられるから学校へきたくない。頭痛・腹痛・かぜなどの理由をつけて学校を休む。きみは、クラスのなかで学校を休んでいる人がいたら「いじめられているからではないか」と、いったんは疑って調査してみる必要がある。

②ちゃんとした理由もないのにちこく・早退する。ぎりぎりに学校へきて、終わるとすぐに帰る。
いじめっ子たちとなるべく顔をあわせたくないからだ。
③浮かぬ顔をしている。なんかいつもと表情や様子がちがう。表情がさえない。おどおどしている。
④泣いている。あるいは、泣いたあとの顔をしている。
⑤洋服が破れたり汚れたりしている。
⑥傷・こぶ・あざ・鼻血・けがをしている。
⑦食欲がない。給食や弁当を残している。
なにか悩んでいるのだ。
⑧いつもの友人と遊ばない。いっしょの行動をしない。
グループの仲間はずしにあったのかもしれない。
⑨ものがなくなる、隠される。
これもいしめのやりかただ。きっとだれかにいしめられているんだ。
⑩一人おくれて教室に入ってくる。

いしめられるのはたいがい休み時間だから、休み時間になるといじめっ子につかまらないように、遠くのほうへ逃げたり、どこかにかくれてしまうから、ベルがなるとどうしてもおくれて教室に入ることになる。
⑪いす・机がこわされる。廊下にほうりたされている。
⑫そうしのとき、机・いすを後ろに下げるか、その人の机やいすはだれも手をつけない。
⑬机や学用品・ノート・教科書にひといことはで落書きされる。「ゴキブリ死ネ」「短足死ネ」「お前なんか死んじゃえ」「学校へくるな」といったことばが落書きされる。
これはあきらかにいじめだ。
⑭トイレや教室・廊下の壁や黒板に「だれだれ殺せ」といったような、いじめのことばが落書きされる。
グループのいじめがこういう落書きをとおしてクラスのいじめにひろがっていく。
⑮「十秒ゲーム」をやられる。授業のはしめに用具を机上から落とされたり、机・いすがたおされたりする。
⑯正しい意見なのに、「へー」とやじがとぶ。授業や学活のとき、正しい答や意見を

のべると、「ヒェー」などとバカにしたようなやじがとぶ。
⑰同しように、正しい意見なのに、なぜか支持されない。
いしめがはじまると、その人のすることなすことすべてがみんなから反対される。
⑱リーターが突然やめたいといいだしたり、やる気を失なう。
正しいことを主張する人もいしめられる。みんなから煙たがられいやがられる。だから、リーダーは、だんだんと正しいことがいえなくなり、いうときらわれたり「ふん、ブリッ子ぶってさ」と悪口をいわれたりして、だんだんとやる気を失なってしまう。そのうち、これ以上、リーダーをやっているといじめにあうと感し、突然「やめたい」といいたす。
⑲その人が先生からほめられたりすると、嘲笑したりシラケがおこる。あるいは、あとで「なにさ、あんなやつほめてさ」とケチかつくようなとき。
⑳かけ口、悪口のなかで、とくにはけしい集中をあびる。
㉑グループでないのにトイレからでてくる。
中学生はトイレにいくときも仲よしといっしょた。しかし、グループでないのに、いつもある人かその人たちといっしょにトイレに入って出てくる。トイレはしはしばかく

れたいじめの場所として使われる。もしやいしめられているんではないかと、とぼけた顔をしてトイレに入ってみるといい。
㉒ものがこわれたり事件がおこったとき、ある人のせいにする。
「だれがガラスわった」と先生がきくと、
「Kくん」
「だらしないな。黒板をふく係はだれだ」
「Kくん」
と、なんでもかんでも、バカにしたように特定の人の名があげられるようなとき。
㉓同しように、「だれかやってくれないか」というと、特定の人の名前がふざけ半分にすいせんされる。
「だれか配ってくれる人いないかな」と先生がいうと「Kくん」というようにだ。
㉔班長や専門委員、実行委員の選挙のとき、ふざけ半分に「あいつに投票しろ」といだし、すいせんされるようなとき。
㉕ある人が「クラスの恥」と非難される。
「あいつがぐずだから負けたんだ」「あいつがドンだから早くできなかったんだ」「あい

NO_4

つがいるからいつもクラスが恥をかくんだ」と、本当はそうでないのに、あるいは、そんなに大げさなことではないのに、誇張されて「クラスの恥」と非難されたり追及されたりするとき、これもいじめの一つだ。

㉖一人ぼつんとしている。

これまでグループといっしょだったのに、休み時間や登下校のとき、ぼつんと一人で行動している人。

㉗用事もないのに、職員室や保健室へいく。

これは、いつも先生の近くにいることでいじめられることをさけようとする行動の一つだ。変だな、いじめられているのかなとみていい。

㉘「バイキン」「……菌」といったあだ名をつけられる。

そのうえ、バイキンのタッチ遊びをやるといったようなとき。

㉙遊びのなかでいじめる。

みていると遊びのようにみえるが、そのなかで特定の人がいつもいじめられていることがある。死刑・カステラ・ミッチェル・タコール、サンドバッグ・茶巾ズシ・シャモ・サッカーなどいろんないじめ遊びがある。みんなで遊んでると思って安心してはいけない。

㉚授業中先生に授業に関係のないへんな質問をする。

いじめっ子たちにむりにさせられるのだ。先生がびっくりし、あるいは怒ったりするのをみていじめっ子たちはニヤニヤ笑っている。

以上は、うっかりするとみすごしてしまいそうな小さなできごとで、その一つ一つをみれば、ある日、偶然おこりそうな単純なトラブルだ。しかし、あるきまった人に、くりかえしおこったら、また、このいくつかが平行して長い期間にわたっておこったら、いじめとみていいだろう。

＊代表的ないじめかた

つぎはいじめかたを知っておく必要がある。代表的ないじめかたを紹介しよう。

〈無視するいじめ〉

・話しかけない　・そばによらない　・そこにその人がいないようにふるまう　・順番をはずす　・なにか話しかけてきても知らんぷりする　・あるいはまじめに相手にしない　・話のなかに入れない　・いっしょに行動しない　・同じ班やグループに入らない　・隣りの座席にすわらない　・列にいっしょに並ばない

〈陰湿ないじめ〉

・ものをかくす　・いやなしごとを押しつける　・何回もやりなおさせる　・いやがることをしつこくいう　・その人の使ったものにさわらない　・バイキン・というような人のいやがるあだ名をつける　・わざときこえるように悪口をいう　・面とむかってバカ・グズ・ノロマなどという　・やじる、バカ笑いする　・悪口を落書きする

〈たかりのいじめ〉

・食べ物をおごれという　・お金をたかったり、お金を借してといってかえさない

・自分が持っているのにその人の持ち物だけで遊んだりする　・わざと大切なものを借りてこわす　・いいものや買ったばかりの新しい文房具と、使いふるしのよくない文房具と交換する

〈暴力的いじめ〉

・ぞうきんをぶつける　・物でつっつく　・物をひろわせる　・持ち物をこわす

・せまいところに押しこめる　・なぐる　・足をかける　・けっとばす　・つばをかける　・一人でそうじをやらせ、やらないとモップでたたく　・土下座させる　・いじめられっ子どうしなぐりあいさせる　・トイレにいくとついていってのぞく　・いじめ遊びで暴力をふるう　・変なことをさせる（エッチなこと）・先生に反抗することをさせる　・罪をかぶせる　・悪いことをさせる

ほかにもたくさんあるがとれもひどい。人間として耐えられないようないじめかただ。人間性をふみにじり、死へと追いやるようないじめかただ。

こんないじめが、今、あちこちの教室でおこなわれているんだ。きみのクラスはどうだろう。もう一度、クラスをみまわしてほしい。

NO.5

1　いじめ病の背景

なぜ、いじめがあるのだろうか。

ここでは、そのおおもとをさぐってみたい。

＊いじめは人権侵害

昔からいじめはあった、と大人はいう。たから、今のいじめもたいしたことはないというのだろう。

しかし、昔たって今たって、いしめはよくないことなんた。いしめは、強いものが、勝つときまっている、抵抗できない弱い人を、長い期間にわたって、精神的・肉体的に苦しめるリンチという差別なんだ。

昔たって、いじめられた人はとんなに苦しんたかしれない。昔は、国の政策としていしめが許されていたから、たとえば、敵国人・朝鮮人・身体障害者・職業上からのひとい差別があって、その差別のなかでいじめられた人たちの苦しみは深く大きかった。

ほく自身、子とも時代、知らないで、そういう人たちを差別しいじめてきたこともある。

しかし、戦後、日本が民主主義の国に生まれかわって、差別することは、人間の基本的権利をおかすこととして、してはならないことになった。

ところか、このごろ、中学生のなかにいしめがはやってきたのは、人間の基本的権利、人権にたいする考えかゆるんできたからだ。

人間はだれも幸せに生きる権利があり、その権利をだれもおかしてはならないという考えがぼけてきたんだ。このことが、今、いじめがはやっている最大の原因だ。

自分が幸せに生きたいと同じように、きみのクラスのたれも、幸せに生きたいと考えている。きみ自身、自分の幸せをだれにもおかされたくないように、きみのクラスのだれも自分の幸せをおかされたくないと考えている。いじめは、その人の幸せに生きる権利をうばっている、基本的人権の侵害行為なのだ。

＊個性を無視する

さらにもう一つ、大きな原因がある。

今のいじめは、複雑だから一般的にはいえないこともあるが、いちはん多いのは、みんなとちがう人がいじめられるということだ。

みんなに同調できない人、みんなとうまく遊べない人、みんなと息をあわせられない人だ。そういう人は、どちらかというと動作がゆっくりしているとか、あまり自分の意見をいえない、気が弱いとかいう人だ。あるいは反対に、みんなより一段ととびぬけてめだつ人、みんなとちがう正しい意見をいう人、先生にひいきされていると思われている人、こういう人も、みんなとちがうからいじめられる。

ともかく、みんなと同じでないといしめられるという特徴だ。なぜだろうか。

このごろの学校のなかに、学校の規則やきまりをきびしく守らせ、その型にはめこもうとする教育がはやってきた。そして、その型にはまらない生徒は「よくない生徒」として先生からも親からも地域の人たちからもいじめられるようになった。

このため生徒たちは、その型にはまろう、はまろうとするようになり、その型にはまらない友人をみると気になって「みんなと同じになれ、同じになれ」と強いるようになってしまったのだ。これはあとで述べるように他人指向する親の育てかたも影響している。

人間は一人ひとりちかいがある。それを個性という。その個性は尊重されなくてはならないのだが、「みんなと同し型にはまれ」の大運動のなかで、個性は無視され、個性によるちがいが、いしめの対象になってしまったのだ。

一人ひとりのちがいを認めてやること、そうすれは、いしめもずいぶん少なくなるのではないかと思う。

＊いらいらさせられている

そして最後には、中学生が今、たいへん攻撃的になっているということだ。いらいらしているということだ。ほしいものが手に入らないので、やつあたりしたいようなむしゃくしゃした状態にあると考えていい。だから、たいへんいじめかおこりやすい状態になっているんだ。

社会心理学者のフロムという人が、こんなことをいっている。

「人間というのは、世界を変えるほどの意志と能力と自由をもつ創造者だから、いつもある型にはめこまれるという受身にはたえられない。そこからぬけだそうとする。そのぬけだしかたの一つは、力をもった人や集団に屈服し同一化すること、二つは、

破壊に立ちあがることである。人は創造をとめられれば破壊することによって人間であることを証明しようとするものだ。」

このフロムのことばを今のきみたちにあてはめれば、型にはめこまれた中学生は、そこからぬけだそうと、いらいらした状態になり、人間であることを証明しようとして「暴力」の創造者になるというのだ。だから、型にはめこまれた中学生は、いじめの勢力に加わり同調して、人間性を破壊するいじめをしやすい状態にあるということになる。

この解決には、きみたちの創造性を育てるような教育をしてもらわなくてはならないのだが、きみたち自身、今すぐにやれることは、自分を型にはめようとする力に負けず、自由と創造の心を失なわないことだ。きみを型にはめこもうとするのは、きみの自由を制限し、幸せになる権利をうばっていることでもあるからだ。

もし、きみがいらいらし「弱いやつをみたらやっつけろ」といういじめ病にかかっているとしたら、そのきみのいらいらを、自分を型にはめこもうとするものにぶつけていくことだ。

以上がいじめの背景だが、さらに大人社会のいじめが中学生に影響を与えている。

2　大人社会を反映している

＊南極でもいじめがあった

読売新聞に去年、子ども記者によるいじめの研究シリーズが八回にわたって連載された。その最終回に「南極でも深刻、仲間はずれ」と題して、大人たちの、それも南極越冬隊の生活のなかでもいじめがあると報ぜられていた。

ちょっと信じられない話だった。

記事によると、南極越冬隊は、十一月に観測船「しらせ」に乗って日本を出発し、一か月かかって南極に着き、越冬隊員や資材をおろし、船は日本に帰ってしまう。越冬隊はそれから一年間、狭い不自由な場所で、寒さとたたかいながら、共同生活をはじめる。

だから、次の年、船がむかえにくるまで、隊員たちは、仲良く協力しあって生きていかなくてはならないのに、いじめがあるというのだ。

そのいじめは仲間はずしだという。

なぜ仲間はずしがおこるのか、越冬隊長をつとめたことのある平沢威男氏が豆記者の

質問にこたえて、こう述べていた。

「どうも人間は、いつも同じような人だけでまとまっているのは息がつまっちゃう。そこで、なぜかわからないけど、自分より劣っている人や、変わっている人を仲間はずれにしたりすることが、残りの人が集団としてまとまるのに必要な条件になってんじゃないかという気がするんですね」

つまり、みんなとちがう人をいじめることで、みんながまとまるっていうんだ。きみたちのいじめのやり方とよく似ていると思わないか。

＊母親たちもいじめている

これは聞いた話だが、ニューヨークに日本の商社が進出し、社員が家族をともなって長期に出張している。そのため会社では、そういう家族のためにアパートを借りて、十数世帯を、そこに住まわせている。

昼になると、御主人は会社に、子どもたちは学校にいって、奥さんたちだけになる。ところが、この奥さんたちのなかで、たえずだれか一人がいじめられているというのだ。ニューヨークという異郷の地で心細い毎日を送っているのだから、日本人同士いっそう仲良くしなければならないのに、だれかをいじめてないと毎日の生活がなりたたないというのだ。

しかし、これはニューヨークの日本人だけの話ではない。

ごく近くをみわたしても、いじめられている奥さんがいる。

幼稚園のバスが迎えにくるまで、何人かの奥さんが街角で待っているが、一人だけポツンと離れている人がいる。あとの人は、丸く輪になってひそひそと、ポツンと離れた人をチラチラみながら、ときどきバカにしたように笑ったりしている。あるときなどは、大声で「むこうへ行け。そこに立っていると、くさい風がにおってくるだろう！」と怒鳴っていたことがあった。

＊会社でもいじめがある

大人の社会のいじめは、南極越冬隊・ニューヨークの商社アパート・町のなかにもあるくらいだから、ふつうの会社なんかでもよくおこっている。

『週刊現代』という雑誌に、こんな例が紹介されていた。牛場靖彦氏がみた、ある総合商社の部長代理S氏がいじめられた話だ。そのいじめは、S氏の上役の部長が、S氏

に地位をおびやかされるのを恐れて部下に指示して、次の七つの手段によって、いじめたというのだ。そのKOセブン作戦とは、

①S氏を全員が無視する。朝夕のあいさつはむろん、しごと上の声もいっさいかけない。いわゆるシカトする。

②S氏に近づいた社員は、勤務評定を最低ランクにし、地方へ左遷（低い地位にさげて転勤させる）させ、S氏と仲のよい人たちを遠ざける。

③古くからいるOLがS氏の行動をみはって、部長へ細かく報告する。

④社内の回覧も重要なものはS氏にまわさない。情報を流さない。

⑤情報を知らないS氏をわざと情報連絡会に出席させ、恥をかかせる。

⑥部の歓送迎会にS氏をよはない。村八分、つまり、ハブにする。

⑦新入のOL程度のしごとしか与えない。

このほかにS氏の両親がなくなったときも香典もたさない、手伝いにもたさないなとしていじめた。

しかし、S氏は必死に耐え、その姿はすさましいものたったという。

記事によれば、こうしたいしめのほかに、ウソの電話メモ、あいまいな伝言、トイレ

に入ると水をかけられたり、そのうえ最近では、「ハイキンいしめ」によって仲間はずしをしているという。

「日本のサラリーマン社会は欧米とちがって、わくにはまった人間以外は、異端者（変わった考えの人）としていじめられるという風土があるんです」と牛場氏は述べている。

また、こんないしめもあった。

横須賀に浦賀重工という会社があった。この会社が別の会社にかわったとき、会社につごうのよい御用組合をつくって、前からの労働組合の人たちを徹底していしめたんだ。労働組合の人たちを役付きにしない、昇給させない、そのうえ、昼食休みになると、労働組合の人たちにデモをかけてののしり、会社から追い出そうとした。このため負けて御用組合に入りなおした人が続出したという。

つい先だって、これと似たことがエールフランス航空日本支社でもあった。

それは会社が希望退職者を募集したが、そのやりかたに不満を感じた木原さんたち二十人は「この募集は希望となっているが実際は強制している」と反対運動をおこしたら、会社側と御用組合の元幹部たちが木原さんを呼びつけ、コーヒーをかけたり腰投げをしたりして、三週間のけかをさせたことがあった。

会社のやりかたにおかしいことかあれは、従業員は権利として「おかしい」といっていいし、それに対して、会社は「おかしくない」と主張すればいいのに、暴力的ないしめによって、押さえつけようというやりかたは、日本の会社の特徴にもなっている。

人によっては政府もいしめをしているという。

たとえは、国民のなかには弱い立場の人々かいる。子ども・老人・身体障害者の人たちだ。こういう人たちには国の予算をたくさんつかって、生活していくことに困らないようにするのが、ほんとうの人間味のあるあたたかい政治だ。

しかし、そういうことに使う予算は削られている。弱い立場の人々を切りすてていこうという考えだ。つまり、弱いものいしめの予算であり政治だ。これを「弱者切り捨て政策」といっている。この延長線上にいろんな人たちがいじめられ切りすてられている。

3　大人になるきみへ

＊子どもが発明したいじめはない

こうした例をあげていくときりがないが、つぎのことはいえる。

NO.8

それは、きみたちのなかのいじめは、日本の大人社会にあるいじめをうつしだしているということだ。

つまり、子どもは大人の反映だということだ。子どもの発明した問題行動はない。非行もいじめもみんな大人がやってみせていることだ。型にはめこもうとするのも大人たちの考えだしたことだ。いじめ病の病原菌をばらまいているのは大人たちなんだ。

中学生のいじめがどうのこうのというまえに、大人たちが自分のなかにあるいじめをやめることだ。

大人たちがいじめのない社会をしんけんになってつくろうとしないかぎり、小中高校生のいじめもなくならないということだ。むろん、この大人のなかには、先生もふくまれている。体罰といういじめによって生徒たちを取締っているやりかたを改めてもらわなくてはならない。自分が体罰いじめをしていながら、生徒たちに「いじめるな」などいう資格はないからだ。

とはいっても、きみたち自身の立場は弱く、大人たちにむかって「いじめのない社会をつくってください」といったところで、その声は大人たちにととかず、大人のいじめ社会をつきくずす力にはならない。大人たちのいじめは大人たち自身とりのぞいてもらわなくてはならない。

＊大人になる前に、今

しかし、きみたちは、やがて大人になる。世のなかにでていく。そのときには、大人の一人として、いじめのない社会をつくるために立ちあがってほしい。きみたちが大人になったとき、大人の社会のいしめをやめさせる努力をしなければ、依然としていじめ社会は続き、きみたちの子どもは、またいじめに泣くことになる。

しかし、大人になって、急にいじめをなくそうとしても、すぐに力はでてこない。今のうちからその力を養っておかなくてはだめだ。

今のきみたちのクラスのなかにあるいじめにとりくみ、いじめのないクラスをつくることだ。そうすれば、大人になって、どうやったらいじめのない社会をつくることができるのかの練習にもなる。そうしないと大人になってまで、いじめ、いじめられの情けない生活をおくることになる。

いや、将来の練習のためだけではない。もしも、日本中の中学校のすべてのクラスにいじめがなくなれば、その中学生たちがそのままずっと大きくなって大人になったとき、日本中からいじめがなくなることになる。そんな理想をめざして、今、きみのクラスからいじめをなくすことに立ちあがってほしい。●

中２Ａアンケート　1992.12.8

・次のアンケートに答えてください。名●は書かなくていいです。

・次のような犠牲者は、ぼくで最後にして」を読んだ感想を書いてください。

1，「ぼくのような犠牲者は、ぼくで最後にして」を読んだ感想を書いてください。

2，今、クラスのなかにいじめはあると思いますか。
「ある」ならば、どないじめがいまありますか。

3，あなたは、いじめられたことがありますか。
また、どんなふうにいじめられましたか。

4，いじめにであったときあなたはどうしますか。また、どうしなければならないと思いますか。